

菰野藩の学問

武より文へ

慶長5年(1600)、土方雄氏が菰野城下1万1千石で就封すると、はじめは、三滝川原、松尾あたりで武術、馬術の訓練場を設けた。次第に文教の政策を執るようになった。隣藩の桑名藩は立教館、神戸藩は教倫齋を、亀山藩は明倫舎、津藩は有造館を創設。菰野藩も当初麗沢館のち、修文館、顕道館ら藩学校を設けた。

麗沢館

文政3年(1820)菰野陣屋内(今の洗心教団の東角)。南川金溪の長子蔣山(志道)が開く。

修文館

天保7年(1836)十世藩主土方雄興は麗沢館を発展させ、新しく陣屋の表門の前に5間×10間(50坪)ほどの文学講堂と58坪の斎武場を設ける。蔣山の子定軒に修文館の督学を命じている。

顕道館

明治2年(1869)修文館を藩内の郷会所(今の役場菰野支所)に移して顕道館と改称する。この施設が明治6年(1873)菰野学校となった。

龍崎塾

元禄2年(1689)生まれの龍崎致齋は、宇佐美直介に句読を、江戸の林鳳岡に朱子学を、のちに伊藤東涯に古学を学ぶ。致齋の塾から、小沢担軒、蜂陵、南川金溪、山田三水、横山惟中らの逸材が出ている。

久保塾

天明3年(1783)吉沢村に塾を開く、この門下から津坂東陽(津藩校有造館初代督学)・平井澹所(忍藩進修館)・山田三川(安中藩)らが出る。